

氏名	塚田 圭輔
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1313 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	Ulnar Nerve Dislocation and Subluxation from the Cubital Tunnel Are Common in College Athletes.
指導教員	准教授 宮本 亘（板橋・スポーツ医療）
論文審査委員	主査：村田 泰章 教授（ちば・整形） 副査：鈴木 卓 教授（板橋・救急） 副査：北國 圭一 講師（板橋・神経内科）

## 論文審査結果の要旨

塚田圭輔氏の論文、 Ulnar Nerve Dislocation and Subluxation from the Cubital Tunnel Are Common in College Athletes について、2023 年 1 月 12 日 16 時より、副査である板橋救急科 鈴木卓教授、板橋脳神経内科 北國圭一講師と、主査であるちば整形外科 村田泰章が出席して審査を行った。

まず、塚田圭輔氏が 20 分間のプレゼンテーションを行った。

発表内容であるが、背景として、肘部管における尺骨神経の脱臼、亜脱臼は、尺骨神経障害の原因となり、症状がない健常者でも起こることが報告されていること、アスリートでは競技活動で上肢を頻繁に使用するため、健常者よりも尺骨神経脱臼、亜脱臼が生じやすいと言われるがその発生頻度は不明であることが述べられた。研究の目的は、大学野球部、ラグビー部、サッカー部、駅伝競走部の選手を対象大学野球部、ラグビー部、サッカー部、駅伝競走部の選手を対象として、超音波検査、症状、身体所見を調査して、アスリートにおける尺骨神経脱臼、亜脱臼の発生頻度を明らかにすることであった。調査の結果、尺骨神経の亜脱臼、脱臼は、上肢の負荷が大きい競技（野球、ラグビー）で上肢の負荷が小さい競技（サッカー、駅伝競走）と比べ、有意に高頻度であった（ $p<0.001$ ）ことが報告された。

プレゼンテーション後に、主査、副査から約 30 分間、質疑が行われた。超音波検査は、上腕三頭筋に力が入る自動運動ではなく、他動運動で行った理由、対象者の痛みが尺骨神経脱臼、亜脱臼由来といえるのかという点、今後の研究の発展方向などについての確認が行われた。優れた点として、主観的、客観的所見の有無に関わらず尺骨神経脱臼、亜脱臼は大学アスリートの 75.8%と高頻度に発生することを明らかにしたことが、研究の限界として、男性アスリートのみを対象としたこと、画像診断が超音波検査のみで、MRI を行っていないこと、横断研究でないため、利き手による差異を調査できていないことが確認された。結論として、今後のアスリートに対するトレーニングやコンディション管理の発展に寄与するところの大きい論文であり、学位論文としてふさわしいと判断した。